

解 答

1 (C)	2 (D)	3 (B)	4 (A)	5 (D)	6 (D)
7 (D)	8 (C)	9 (C)	10 (A)	11 (A)	12 (A)
13 (B)	14 (C)	15 (C)	16 (D)	17 (A)	18 (B)
19 (C)	20 (B)				

1. 「私たちはバイク通学を許可されていますか？」

▶ 空欄のあとが動詞の原形 come であるから、(A), (B)は不適。allow A to do「A が～することを許す」の受動態は、A be allowed to do という形になる。

□ allow A to do 「A が～するのを許す」 (= permit A to do)

The children are not allowed to stay at school after dark. [受動態]

(子供たちは暗くなつてから学校にいてはいけません。)

2. 「止まる場所がどこにも見つからなかった。町のホテル全部に当たってみたが、どこも満室だった」

▶ stay somewhere が本来の関係なので、to stay が anywhere を修飾する to 不定詞の形容詞的用法。否定文のため somewhere は anywhere になる。

■ 不定詞が直前の名詞の内容を説明する [形容詞的用法]

We were surprised at her decision to become an actress.

(私たちは、女優になるという彼女の決心に驚いた。)

例文では、不定詞の直前にある名詞 her decision(彼女の決心)がどういうものかを、to become an actress という不定詞が説明している。このように、不定詞が直前の名詞の具体的な内容を説明することがある。

3. 「アンナは大学入試のために勉強する必要がある」

▶ need to do「～する必要がある」の語法を問う問題である。need doing は「～される必要がある」という意味なので混同しなように注意。

□ need to do 「～する必要がある」

We need to take a break. (私たちは休憩する必要がある。)

□ need doing 「～される必要がある」 (= need to be done)

Those windows need cleaning. (これらの窓は掃除する必要がある)

(= Those windows need to be cleaned.)

■ 助動詞 need の用法

▶ 助動詞 need は「～する必要がある」という意味を表し、おもに否定文と疑問文で用いられる

You needn't worry about me. (私のことは心配しなくてもいい。) [否定文]

Need I pay now? (今、支払いをする必要がありますか。) [疑問文]

▶ 肯定文では一般動詞として〈need to do〉の形で「～する必要がある」という意味を表す。

He needs to have a haircut. (彼は散髪する必要がある。)

▶ 助動詞 need には過去形がないので、過去のことを述べるときは一般動詞として用いる。

I didn't need to give a speech at the meeting.

(会合でスピーチをする必要はなかった。)

4. 「お母さんが放課後、車で迎えに来てくれるんですよね？」

▶ 平叙文の付加疑問は、肯定文なら「助動詞〔be 動詞〕+ not の短縮形 + 代名詞」、否定文なら「助動詞〔be 動詞〕+ 代名詞」の形になる。

5. 「新しいベトナム料理のレストランの食事がとてもおいしかったので、来週またディナーを食べに行くことにした」

□ so ... (that) ~「とても…なので～/～するほど…」

I was so absorbed in reading the novel that I forgot to call her.

(その小説に夢中になってしまって、彼女に電話をするのを忘れてしまった。)

6. 「そのチョコレート工場のおよそ 1km 以内に来ると、チョコレートの匂いがしますよ」

► **within a kilometer of** ~ 「～の(半径)1km 以内に」 この get は, come や arrive に近い意味。

□ ... or so 「[数詞・数量を表す語の後で]…かそのくらい」

Most trains are fairly empty until 7 a.m. or so.

(ほとんどの電車は午前 7 時頃まではかなり空いている。)

7. 「ビリーはニンジンが好きではなかったけれども、母親はいずれにしてもビリーにニンジンを食べさせた」

► カンマの前後はいずれも **主語と動詞** の揃った文なので、**接続詞** が入る。接続詞は (D)although「～だけれども」のみなので, (D)が正解。

(A)in spite of ~「～にもかかわらず」は**前置詞**として機能し, (B)は**形容詞**で, regardless of ~「～にかかわらず」の形で使うのが一般的。 (C)nevertheless「それにもかかわらず」は前言の内容と矛盾することを述べる場合に用いる**副詞**である。

『譲歩』を表す群前置詞

□ **in spite of** ~「～にもかかわらず」 (= despite ~)

□ **for all** ~「～にもかかわらず」 (= in spite of ~)

For all our efforts, the plan ended in failure.

(私たちの努力にもかかわらず、その計画は失敗に終わった。)

□ **regardless of** ~「～にかかわらず/～にかまわず」 (= in spite of ~)

8. 「ジャスティン=ビーバーにインタビューしたいと思っています。彼の音楽に関して可能な限りすべてを知ることにとても関心があります」

► **regarding** 直前の all I can は後ろに find out が省略された形。

□ **regarding** 「～に関して/～について」 (= about/concerning)

Regarding payment, please send us a check.

(お支払いには、小切手をお送りください。)

『関連』を表す群前置詞

□ **as for** ~「～について言えば/～に関する限りでは」

□ **as to** ~「～について」 (= about)

□ **as regards** ~

□ **with[in] regard to** ~ } 「～に関して(は)」 (= concerning)

□ **with respect to** ~ } ➡ この respect は「点」の意味。

9. 「ジョンはテーブルにぶつかった時に、花瓶に当たって倒してしまい、テーブルクロス全体に水をぶちかけた」

► カンマ以下の spilling water all over the tablecloth は**分詞構文**。

► (B)knock out~「(相手)を失神させる」, (D)knock up ~「(人)をドアをノックして起こす」

□ **knock over** ~「～にぶつかって倒す」

□ **bump into** ~「～にドシンと当たる/～にばったり出くわす」

10. 「多くの科学者たちが地球温暖化の影響を詳細に調査中である」

□ **in depth** 「深く/詳細に」 (= deeply/in detail)

The more you learn, the more you will want to understand the principles in depth.

(学べば学ぶほど、より深く原理を知りたいと思うものだ。)

11. 「出かける時には暖かい帽子を持って行きなさいね、メリージェーン。今晚は肌寒くなるみたいだから」

► (B)wear は「着ている」状態を表し, (C)put on は「着る」という 1 回の動作を示す。また, wear は状態動詞で一般に命令文には用いない。

□ **take** ~ with one 「～を持って行く」

▶ 『携帯する』の意では **with one** を伴うことが多い。

Take your camera **with you**.

(カメラを持って行きなさい。)

12. 「ジェーンの父はスペインに移住した時、ジェーンに古い絵画のコレクションを残した」

▶ **leave A B**「A(人)に B(物)を残す」という第4文型。他の選択肢は第4文型をとらない。

[例] May I leave her a message [a message **for** her] then.

(それでは彼女に伝言をお願いしたいのですがよろしいでしょうか。)

□ **provide A with B**「Aに Bを供給する」(= **provide B for A**)

▶ 目的語に Bが来ると、前置詞が for になる点に注意。

Parents nowadays *provide* their children **with** too much amusements.

(近頃の親は子供にあまりにも多くの娯楽を与えすぎる。)

13. 「週末のスキー旅行が本当に楽しみだなあ」

▶ 選択肢はすべて現在分詞。空欄のあと forward to をヒントに, (B)looking に着目する。

□ **look forward to ~**「～を楽しみにする」

▶ to のあとには普通名詞の他に動名詞もくる。

I am *looking forward to seeing* you on Sunday.

(私は日曜日にあなたとお会いするのを楽しみにしています。)

14. 「小型の中古車を買いたいのですが、いくら支払うことになるかの正確な見積もりをもらえますか?」

▶ 空所直後の of は目的格を表しており, estimate how much I will have to pay が名詞構文になったものである。どれだけ払うことになるのか尋ねているので, (C)estimate「見積もり」が正解。

その他の選択肢は, (A)cost「犠牲, 支出, 費用」, (B)answer「答え, 反答」, (D)price「価格」という意味である。

15. 「男性が海で溺れていたので、救助員が海に飛び込んで彼を救助した」

□ **dash into the water**「海〔河・湖など〕に飛び込む」語彙

cf. Ken dashed into the room.

(ケンは部屋に駆け込んだ。)

16. 「勉強でうまくいきたいなら、学習に対する前向きな態度を持つべきだ」

▶ **a positive attitude toward(s)** ~「～に対する前向きな態度」。

(A)の behavior は「他人に対する」態度や振る舞いを表し, (D)の attitude は「…(すること)に対する」態度を表すので, 文意から(D)を選ぶ。

(A)behavior「振る舞い, 態度」, (B)thinking「思考」, (C)movement「動き, 運動」, (D)attitude「態度」。

17. 「当団体は現在、ホームレスの方々を支援する募金を受け付けております」

▶ (A)accept「～を受け取る」, (B)depend「(直後に前置詞 on を伴って)～に頼る」, (C)benefit「～に利益を与える」, (D)ask「～を尋ねる」の中で, donations「寄付, 募金」を目的語にとって意味が通るのは(A)のみ。また, (D)を「～を求める」という意味で用いる場合には ask for ~の形となる。

18. 「ユミコの両親は費用が心配だったが、アメリカに留学したいという彼女の願いに屈した」

▶ give in to ~で「～に屈する」という意の群動詞となる。

▶ (A)give away ~「～をただでやる」, (C)は give A(物) back to B(人)で「Bに Aを返す」というイディオムである。

□ **be worried[concerned] about ~**「～を心配する」

I'm worried about whether she is happy.

(私は彼女が幸せかどうか心配している。)

□ **give in to ~**「～に屈する/～に降参する」

(= **yield to**/**submit to**/**give way to**/**surrender to**)

I gave in to temptation and had a cigarette.

(つい誘惑に負けてタバコを吸ってしまった。)

19. 「ティナは飛行機で窓側の席を取れて喜んでいたが、残念なことに、視界は飛行機の翼によって遮られていた」

► (A)prevented「防止された」, (B)opposed「反対された」, (C)blocked「遮られた」, (D)stopped「止められた」の中で、「視界が飛行機の翼によって」と合わせて意味が通るのは(C)のみ。

20. 「ジョーと物事を話し合うのは難しいと思う。彼は誰かが自分に反対するといつでも、腹を立てる傾向にあるんだ」

► (B)tends以外の選択肢は to 不定詞が後には続かない。(A)react to ~「～に反応する」であるが、この to は前置詞である。

□ **tend to do** 「～する傾向がある」 (= have the tendency to do)

cf. be apt[liable/prone/inclined] to do 「～しがちである/～する傾向がある」

The idle are apt to miss a good chance.

(怠け者は好機を逃しがちです。)